

[所 感]

長崎市議会議員 野口 達也

【福州市】

福州空港から市中心部へ約1時間半、レンガ造りの家屋が多い農村地帯から市中心部へ入るなり、高層ビルが乱立し、車中から見た第一印象は、都市部と地方の町づくりに大きな差異が感じられた。歓迎レセプションでは、公式訪問団、財界交流訪問団、市民交流訪問団ともに温かく歓迎を受けた。

私が所属した水産交流団では、中心部から車で約2時間ほど走った福建省連江県でアワビとコンブの養殖を視察。湾一面に広がるアワビの養殖イカダにはびっくりさせられた。

コンブは約10センチメートルまでを陸上の施設で約10度の水温で生育させ、秋から春までの半年間を海上養殖させるという。半年間で10センチメートルのコンブを約4メートルへと成長させ加工し製品化していた。長崎の水産センターでも試みているが、2メートルほどしか成長しないという。

アワビは、マアワビと中国原産のコトブシをかけあわせたハイブリットアワビを海上養殖している。日本では、ハイブリット種は原種保護の立場から許可されないとのことだが、中国ではOKらしい。連江県同心湾海域一面にびっしりと並んだイカダでは、水面から3メートルほどの海中に吊り下げられた養殖カゴの中に1年もの、2年ものアワビが生育。出荷は早くて2年もので出荷される。日本では3年、4年と大きくしての出荷だが、中国では庶民が買い求めやすい価格で販売できる2年もので出荷しているとのことであった。

コンブ養殖の施設（海洋開発有限公司）、同心湾海域におけるアワビ養殖ともに、多くの雇用を生み出しており、過疎の漁村にとってはなくてはならない産業として位置づけられている。

【上海市】

上海万博会場を視察。約3時間ほどの時間であったが、予約しているにもかかわらず、入場ゲートに入るのに40分待ちして入場。日本館は約5～6時間待ちと大人気であったが、日本館内で展示中の「孫文と梅屋庄吉展」を視察。長崎出身の梅屋庄吉が、物心両面で孫文を支えた資料を見学し、改めて日本と中国の関係を見つめなおす事ができた。

【全体的な所感】

衣・食・住の違いが、そのまま日本と中国の文化の違いであり、街並みを見て、人々の言動を肌で感じながら、あの広大な土地と、未だ人海戦術に頼らざるを得ない現状を見たとき、これから発展していく中国の影響は日本にとって計り知れないものとなる事を実感した。

しかし、私たち訪問団を福州市・上海市ともに歓迎していただき、日本と中国の長く関わりのある歴史を感じるとともに、今回の公式訪問団の一員として参加できたことを感謝し、今後の活動に生かしていきたいと思う。